

19年W杯ラグビー事前キャンプ 上田・イタリア 合意書調印 市長「ムードづくり進めたい」

ガヴァッツィ会長（中央）と合意書
を取り交わす母袋市長（左）。右端
は誘致委の纒沢会長。10月30日



ラグビーの2019年ワールドカップ（W杯）日本大会でイタリアチームによる事前キャンプ実施の合意書に調印するため、10月下旬からイタリアを訪れていた上田市の母

袋創一市長が帰国し、1日、取材に応じた。調印前後のイタリア側の受け入れを「非常に親しく感じた」とし、事前キャンプに向け「上田でもムードづくりを進めたい」と意

欲を示した。

市長は市菅平高原キャンプ地誘致委員会の纒沢剛史会長（菅平高原観光協会会長）、国際キャンプ地誘致推進室職員と共に、北部ベネチアに近いトレヴィーゾ市に3日間滞在。30日にイタリアラグビー連盟のアルフレッド・ガヴァッツィ会長と行った調印式で、18、19年に少なくとも計12日間、菅平高原で事前キャ

ンプを行い、連盟側が菅平を積極的に発信することに合意。会長は11月に商用で訪日予定があり、その際に菅平を視察する意向を示したという。

同市ではイタリア代表が合宿中で、市長らは代表選手が所属するチームの試合を観戦したりトレーニング施設を視察したりした。市長は現地を訪れて調印した意義を「イタリアの代表チームに対しては、出向いて協定を結ぶのが国際的な礼儀だろう」と説明。「今日からイタリアがやって来ることへのムードづくりを市民、まちなか挙げて進めていきたい」と述べた。